１０月１７日

聖書　創世記２２章１～１４節

備え給う神

22:1 これらの出来事の後、神はアブラハムを試練に会わせられた。神は彼に、「アブラハムよ」と呼びかけられると、彼は、「はい。ここにおります」と答えた。

22:2 神は仰せられた。「あなたの子、あなたの愛しているひとり子イサクを連れて、モリヤの地に行きなさい。そしてわたしがあなたに示す一つの山の上で、全焼のいけにえとしてイサクをわたしにささげなさい。」

22:3 翌朝早く、アブラハムはろばに鞍をつけ、ふたりの若い者と息子イサクとをいっしょに連れて行った。彼は全焼のいけにえのためのたきぎを割った。こうして彼は、神がお告げになった場所へ出かけて行った。

22:4 三日目に、アブラハムが目を上げると、その場所がはるかかなたに見えた。

22:5 それでアブラハムは若い者たちに、「あなたがたは、ろばといっしょに、ここに残っていなさい。私と子どもとはあそこに行き、礼拝をして、あなたがたのところに戻って来る」と言った。

22:6 アブラハムは全焼のいけにえのためのたきぎを取り、それをその子イサクに負わせ、火と刀とを自分の手に取り、ふたりはいっしょに進んで行った。

22:7 イサクは父アブラハムに話しかけて言った。「お父さん。」すると彼は、「何だ。イサク」と答えた。イサクは尋ねた。「火とたきぎはありますが、全焼のいけにえのための羊は、どこにあるのですか。」

22:8 アブラハムは答えた。「イサク。神ご自身が全焼のいけにえの羊を備えてくださるのだ。」こうしてふたりはいっしょに歩き続けた。

22:9 ふたりは神がアブラハムに告げられた場所に着き、アブラハムはその所に祭壇を築いた。そうしてたきぎを並べ、自分の子イサクを縛り、祭壇の上のたきぎの上に置いた。

22:10 アブラハムは手を伸ばし、刀を取って自分の子をほふろうとした。

22:11 そのとき、【主】の使いが天から彼を呼び、「アブラハム。アブラハム」と仰せられた。彼は答えた。「はい。ここにおります。」

22:12 御使いは仰せられた。「あなたの手を、その子に下してはならない。その子に何もしてはならない。今、わたしは、あなたが神を恐れることがよくわかった。あなたは、自分の子、自分のひとり子さえ惜しまないでわたしにささげた。」
22:13 アブラハムが目を上げて見ると、見よ、角をやぶにひっかけている一頭の雄羊がいた。アブラハムは行って、その雄羊を取り、それを自分の子の代わりに、全焼のいけにえとしてささげた。
22:14 そうしてアブラハムは、その場所を、アドナイ・イルエと名づけた。今日でも、「【主】の山の上には備えがある」と言い伝えられている。

礼拝

備え給う神

２２章１節は「これらの出来事の後、
神はアブラハムを試練に会わせられた。」
と書き出されています。
これらの出来事の後とは何でしょうか。

２１章で待望の後継者イサクが生まれました。アブラハム百才、サラ九十才の夫婦に約束の子が与えられました。

八日目に割礼を施し、乳離れしたときに盛大な宴会をしました。

御曹司イサクを妬むイシュマエルやその母
ハガルはイサクをからかい、いじめ、迫害する。
サラはその仕返しに二人を追放。
二人は餓死寸前の所、天使に助けられ、
シナイ半島のパランの荒れ野に住むようになりました。この波乱から１０年余りが経過しました。
イシュマエルは成人してエジプトから妻を迎え、
イサクは１２～１５才の青年になっていました。

アブラハムはヘブロンからネゲブの方に移動しました。そこは以前アビメレクに嘘をついた町です。

しかし今回はネゲブ地方のベエルシェバに居住してマムレの樫の木ではなく

タマリスクと言う木を植えて

そこで永遠の神、主の名を呼び求めて

礼拝を続けていました。土地を移動する、転居しても礼拝を続けること、今日で言うと

教会に連なり続けることは大切です。

この礼拝を続けていたことで
試練が来たときも
信仰的に対応することが出来ました。

# アブラハムへの試練とは

「あなたの子、あなたの愛しているひとり子イサクを連れて、モリヤの地に行きなさい。そしてわたしがあなたに示す一つの山の上で、全焼のいけにえとしてイサクをわたしにささげなさい。」

全焼のいけにえとは
神様に献げ尽くすいけにえ
牛、羊を屠り、（殺し）
血を注ぎだして、火で焼き尽くすいけにえ。

自分の子供をこのように
いけにえとして献げることは
余りにも残虐、残酷、
大変厳しい命令であります。

愛情の問題として
我が子をいけにえとすること
とてもとても出来ることではありません。
他人による事故で我が子が死んでも
受容は出来ません。
自分の子を殺せと言う不可解な残酷な命令
愛情の問題、生命倫理の問題。

自分の子をいけにえとして
屠って献げよ
この命令は愛の神、善の神、命の神が
与える命令とはとても理解出来ない。
と言う神学の問題

イサクは約束の子である。
この子孫から救い主が生まれる
神様の計画の子。
この子を屠ったら一体
神様の計画はどのようになるのか。
と言う摂理の問題。

一晩中苦悩の祈り、信仰の戦い。

もし、かつてのネゲブ時代のように祭壇を築いて祈っていなかったなら、どのような不信仰な衝動的な行動、神様の御心に逆らった行動をしていたでしょう。

この１０年、ネゲブに来ても永遠の神、主の名を呼び続け礼拝を続けていました。

それ故、主に従い主に委ねる信仰的な対応が出来ました。

22:3 翌朝早く、アブラハムはろばに鞍をつけ、ふたりの若い者と息子イサクとをいっしょに連れて行った。彼は全焼のいけにえのためのたきぎを割った。こうして彼は、神がお告げになった場所へ出かけて行った。

翌朝早く
暗い夜の間は悶々と苦悩のうめきの祈り、
なぜですか、なぜですかと
うめいていましたが
朝明けとともに主を信じ、主にすべてを任せる
決心をして支度を黙々としました。
ロバに鞍をつけ、我が子を屠る薪を割り
ロバの背に載せました。

目的の地、モリヤの山の麓につくと

アブラハムは全焼のいけにえのためのたきぎを取り、それをその子イサクに負わせ、火と刀とを自分の手に取り、ふたりはいっしょに進んで行った。

モリヤの山に着くと、石を積み上げて祭壇を作り、その上に薪を並べ、青年になっている息子イサクを縄で縛り、祭壇の薪の上に寝かせた。百十才を超える老人アブラハムに抵抗しないで、イサクも黙々と縄で縛られ、薪の上に寝かされた。

アブラハムは刃物を持って息子イサクを献げものにしようとした。

これはレンブラントの
「イサクの犠牲」という絵です。

アブラハムが剣を下そうとするその瞬間
主の使いがアブラハムにストップを
かけました。

22:12 御使いは仰せられた。「あなたの手を、その子に下してはならない。その子に何もしてはならない。今、わたしは、あなたが神を恐れることがよくわかった。あなたは、自分の子、自分のひとり子さえ惜しまないでわたしにささげた。」

22:13 アブラハムが目を上げて見ると、見よ、角
をやぶにひっかけている一頭の雄羊がいた。アブ
ラハムは行って、その雄羊を取り、それを自分の
子の代わりに、全焼のいけにえとしてささげた。
22:14 そうしてアブラハムは、その場所を、アドナ
イ・イルエと名づけた。今日でも、「【主】の山の
上には備えがある」と言い伝えられている。

主はアブラハムを試練にあわせられた。
試練は信仰のテストです。

①主のものを主のものとするテスト。

アブラハムはイサクが乳離れしたとき

族長がするような、これは私の子供、我が一族の後継者と言わんばかりに盛大な宴会をしました。

この試練はアブラハムにイサクは神様からのたまもの、贈り物、プレゼント、神様からの預かり物。

決してアブラハムの私物ではないことを

教えるテスト。

私たちは裸で生まれ裸で死んで行きます。
何一つ所有物を持っていません。
能力的にも、何も出来ない無能力なひ弱な、
赤ちゃんとして生まれました。
能力的にも無能力でした。
今持っているものはすべて神様からの
プレゼント、賜物、贈り物であります。
そのことを信じているか、信仰のテスト。

イサクは神様の賜物とわかっていても
１００才まで待ってやっと与えられた子供を
そう簡単に手放すことは出来ません。
でも手放すことは
主からの賜物という信仰の証しであります。

私たちの家庭に子供、孫が与えられていることは感謝です。

しかし主からの賜物、預かり物、主にお返ししなければならないという信仰で

神様の信仰を伝えることが大切。

子が優秀であっても神様に栄光をお返しして高ぶる必要はありません。

子供の養育で苦労することがあっても、

主に感謝して喜びを持って子と関わるべきです。

健康も能力も主からの賜物です。

健康な体で主に仕えられることを感謝。

健康が奪われる、今していることが出来なくても、不自由な人の世話にならなければならない体になる。かつて出来たことが出来なくなる。それでも

主は与え、主は取り去られる、

主の御名はほむべきかな、賛美しましょう。

経済においても、お金が豊かにあっても
おごらず、自己中心に使わず、
主のものと賢く管理をする。
お金がなくなっても貧乏暮らしをしいられても、
惨めにならず、主を喜びつつ生きる、
これが主に委ねる信仰の生き方です。

# ②主を信頼するテスト

ペテロの手紙第一1:7 あなたがたの信仰の試練は、火で精錬されつつなお朽ちて行く金よりも尊く、イエス・キリストの現れのときに称賛と光栄と栄誉になることがわかります。

コリント第一10:13 あなたがたの会った試練はみな人の知らないものではありません。神は真実な方ですから、あなたがたを、耐えられないほどの試練に会わせることはなさいません。むしろ、耐えられるように、試練とともに脱出の道も備えてくださいます。

a　試練と共に脱出の道も備えていてくださる主を信じる。

身代わりの羊が準備されていた。

b 間一髪、絶体絶命の時には
神の使いが介入して助けてくださることを
信じる

# ③より深くイエス様を知る

イエス様は天の栄光を捨てこの地上に来て、私たちの生きる模範を示してくださいました。

イサクはイエス様のひな形です。

イサクは自分を焼く薪を背負って歩きました。

イエス様は自分を処刑する十字架の木を背負って歩かれました。

イサクの歩いた道、モリヤの山はイエス様が十字架に疲れたゴルゴダの丘の道です。

アブラハムはたとえイサクが殺されても
主は復活させてくださる信仰に至りました。
イエス様は事実、三日目に復活されました。

アブラハムは愛する一人子をモリヤの山でいけにえにしようとしていました。

天の父なる神はその一人子を十字架にかけて死に至らせてくださいました。

私たちは時には涙ながらに献げなければならない時があります。

無理矢理献げさせられる時、幸せを奪われる時であっても

試練とともに脱出の道を備えてくださる主を信じて歩みましょう。

# 祈り